

第十四章 北東北編

第 40 日目 (8 月 28 日(木))

着替え交換の為 岩沼駅一時下車 いざ北海道、最北端の駅「稚内」をめざす

新幹線、在来線共用区間 3 本線路暗くて見えず、残念

米沢-今泉-福島-郡山-岩沼-仙台-山形-左沢-新庄-秋田

長い旅になればなるほど、食料は何とかなるが衣料品はどうしても持ち歩くことができなかった。

これが季節が変わり、夏から秋に替わるとなると大変であった。

洗濯して着換えられるのであれば良いが、服装そのものが夏服から衣替えとなる。

これが今回の旅の問題点でもあり、路線を決めるにあたって苦労したのであった。

そう言う点では、一時帰宅する方策を選び今日に設定していたのであった。

只見線と同様に、米坂線の一部区間が未乗になっている為に米沢駅 - 今泉駅間を往復する。

ナポレオンの言葉に“我が輩の辞書に不可能と言う文字はない”と言ったが、“小生の旅には未乗と言う文字はない”である。

米沢駅発 6:00 の坂町行きの列車に乗るが、朝 1 番列車の為に誰 1 人乗客は乗らず見当たらなかった。

今までの朝 1 番列車には乗客が少なかったが、この列車も案の定、乗客は誰もいなかった。

途中で中郡「ちゅうぐん」と呼ぶ駅があり、上郡「かみごおり」駅は山陽本線、下郡「しもごおり」駅は久留里線にあるが、何故かこの駅は「なかごおり」とは呼ばれなかった。

また、「なかごおり」と呼ぶ駅は見つからず、上郡駅と下郡駅は「仲直り」ができないと思った。

今泉駅の手前には犬川「いぬかわ」駅があり、一瞬、大川「おおかわ」駅と間違えて読んでしまった。

大川駅は鶴見線にあるが、犬川駅の周辺には鶴見線のような工場は見えず犬影も見えなかった。

再び米沢駅に戻るが、多くの乗客が翼を広げて新幹線「つばさ」を待っていた。

普通列車に乗る人少なく、米沢駅は、正に、“新幹線駅”に変わっていた。

一路、奥羽本線で上るが、新幹線の開業で福島駅までの普通列車の本数は極端に少なくなり、事前に時刻表で調べておく必要があった。

この区間には普通列車が 1 日に 6 本しかないが、新幹線は何と 30 本近くもあった。

米沢駅発 7:17 とうまいダイヤに設定していたので直ぐに乗車した。

米沢駅を出ると大沢駅、峠駅、板谷駅、赤岩駅と続くが、いずれの駅にもスイッチバックは無かった。

途中の峠駅ではダイヤも正常であったので旅の峠も越したと思うが、やはりこの先も心配はあると思った。